



金澤北ロータークラブ



眠れる巨人・印度はもう眠っていない

吉井 清 会員

「印度」はあなたに何を想起させるのでしょうか。大河ガンジスの悠久の流れとともに生きる敬虔なヒンズー教徒の姿でしょうか。それとも年率8.5パーセントを上回る驚異的な経済発展を続ける経済大国の姿でしょうか。

私の「印度観」も大きく乖離する「悠久と激変」、この二つのイメージの中にあります。私の「印度」とのかかわりは、釈尊成道の聖地、ブッダガヤ（BOHDGAYA）に1971年から1974年にかけて、通算15ヶ月の間駐在して過ごしたことに始まり、すでに36年を数えることになりました。36年のあいだ仕事を通じ、或いは文化交流の使節団として、又幾度にもわたる旅行者として見てきた「印度」は近年、大きな変貌を遂げました。しかし、変貌を遂げた都市の姿と、一方では2,500年の昔、釈尊の生前と大きくは変わるまいと思われる、まるで時が止まったかのように思える農村での人々の日々の暮らし方です。

歩き出したゾウ

一昨年6月までの1年余り、私の任地はガンジス河の中流に位置するベナレス（VARANASI）近郊の鹿野苑（SARNATH）と呼ばれる仏教聖地でした。仏教寺院に付属する小さな職業訓練学校と小さな診療所、簡便な宿泊施設や運営スタッフの宿舎など、近隣の地域住民を対象とした施設群のための用地取得と基本設計が私の仕事でした。ここで仕事を通じて知り合った会計士、弁護士、州政府の官僚、建設資材のディーラー、オートリクシヨアの運転手など、さまざまな人たちが、それぞれに彼らの信奉するそれぞれの宗教にしたがって一日のスケジュールをこなしています。家族ぐるみの付き合いとなった会計士のDEEPUCK氏は南インド出身の敬虔なヒンドウ教徒で、早晩に起きて丹念に沐浴して身を清め、花を摘んで神前に捧げて礼拝し、家族と朝食を摂って事務所へ入ります。遠い昔からこの地で繰り返されてきた生活サイクルです。

インドは向こう50年、世界経済を左右するであろうと言われるBRICs 4ヶ国の中にあって、最も高い経済成長率を保ち続ける国です。（ゴールドマン・サックスの推計による）

私の30年来のインドにおける友人CHADHAさんは「あなたはインドをいまだにIT産業に頼って経済成長を続けている国と見ているでしょう、でも現実のインドはもはや一大消費国ですよ」と論じてくれます。

聞けば日本の中産階級に匹敵する層が1億5,000万人いると言うことです。劣悪なインフラの整備に象徴されるようにインドはまさにさまざまな分野において大きく発展し変貌を遂げて行く、多くの可能性を秘めた魅力あるビジネス対象なのです。

袖すり合うも他生（前世と来世）の縁

私は任地への行き帰りに飛行機の隣席に座る人達との会話を通じていろんなことを学びます。隣席に座った人達はさまざま、運がいいと楽しい愉快な時間になります。そんな時彼らが話してくれる世間話や家族のこと、彼らのビジネスのことなどは私にとっていつも新鮮な情報です。或るインド系アメリカ人（印僑/華僑に比してそう呼ばれている）が話してくれた機中での話から、印僑の存在とインドの急速な経済成長のからくりが見えたり、故郷インドと生活の場アメリカとの間を頻繁に行き来する印僑の力とアメリカの経済戦略がかすかに伺えたりで、機中の7時間余りは貴重な勉強の時間になったりもします。IT時代、BPO（Business Process Outsourcing）を超えて私の知らない次のビジネス関係が現れてきそうです。

インド人氣質インド人氣質/数学と語学の達人たち

元財務官、榊原英資氏はその著書「インド巨大市場を読みとく」（東洋経済新報社）の中でインド人と向き合うにあたって「理論を重んじ議論を好むと言うことは十分留意する必要がある。仏教文化・多神教的自然観・無常観等で日本との文化的共通点があることはあるのだがやはり、儒教や道教の影響が強い東アジア圏とはかなりの相違がある。論理や討論に弱い多くの日本人にとっては、ある意味で難しい交渉相手ではある。」と述べている。同感である。

三国一の花嫁/印度と日本のかかわり

古来日本人の世界観は本朝と唐、天竺を視野に置いて世界としていたようで、世界一のすばらしい花嫁を指して「三国一の」と称したようです。「平家物語」に現れる祇園精舎・沙羅双樹などの印度由来の文物は仏教教義と併せて古来、日本の知識人がその教養の基礎として修めていた常識でした。そんなに古くから知っていたはずの天竺・印度を現代日本人が認識したのは極最近のことです。いま経済力で極近い将来、追い越されることがはっきりして、改めて再認識したような観があります。このところ慌てふためいて印度へのシフトを迫られている企業家たちの様子が新聞の経済面を埋めています。反面、個人の間では濃密な人的交流があり、印度国歌の作詞・作曲者であり、アジア人として始めてノーベル文学賞を受賞した印度の詩聖として知られるタゴールと親交を持った岡倉天心、河口慧海、野口米次郎などの明治期の日本人が知られています。分けてもインド人女性に恋して、熱心に求婚し結婚を果たせなかった岡倉天心の話は良く知られるところです。

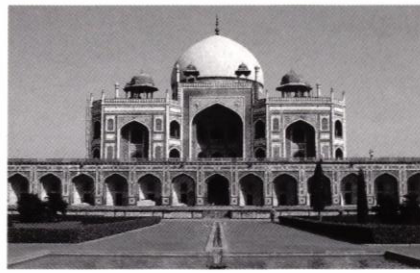
次の旅行を計画しています

いま仲間たちと南インドへの旅行を計画しています。インドのシリコンバレーとして知られるIT産業の中心都市バンガロールに新しいインド、変貌するインドを見たい。ドラビダ文化、回教の影響を受けていない土着の文化が色濃く残る中世からの歴史都市コチンに入り江や湖沼地帯を一日ボートで旅する、アラビア海とインド洋、入日と夕日を見る、インド亜大陸の最南端コモリン岬への旅です。



エピローグ

ガンジス川のガートで沐浴する敬虔な人々の姿も、デリー近郊に出現した産業都市グルガオンやインドのシリコンバレーと呼ばれ、世界の耳目を集める南インドのIT産業都市バンガロールの様相も共に現代インドの実像です。何しろ人類の64分の11がひしめく印度亜大陸です、4,000年を越える歴史と世界最先端の医療、薬品、IT技術とが混在する現代インドは十分「刺激的」です。



我が家のお宝物

お宝にはいろいろな物があります。その家の財産的役割を持つ物、あるものはお主の道楽になるものがあります。骨董と名のつくものは、その人の自己満足によるものが多いです。古くから家の歴史に残るものも少なくありません。私の紹介するものは、そうした分類のものではなく、世にも不思議なことです。

松任市(白山市)アピタの近くに小さな土地があります。日曜日には、家内と野菜作りを行っております。日当たりがよく、1年中野菜ができる水田地帯です。実りの秋には、あたり一帯が金色に染まり、都市部に近いのにのんびりと1日を過ごすことができます。

その近くに小川が流れ、用水路があります。3年ほど前になりますが、小川の中に何かが浮いています。拾い上げてみると、それは綺麗な招福さんです。30cm位の大きさです。雨が降り、水高みづかさが増えてどこからか流れてきたのかと思い、拾いあげて水辺のところにおいて置きましたが、それからしばらくしたら見えなくなりました。

しかし、今年の春早くそこを通ると、同じ招福さんが同じところに流れ着いております。

このような話はどこかで聞いたことがあります。土の中から仏像が出てきたという話です。

なぜこんなところに流れているのか不思議でした。綺麗に洗ってみると古九谷焼のようです。私の家に何かあ

瀧 憲 三 会 員

るのかと思い、しばらく納屋の棚に置いてあったのですが、最近我が家に持って帰り床に置くことにしました。

普通は水に浮くより、沈んでしまうのですが、ある人に見せたらこれは変わっている、底に穴があるのに穴がない。それで川上から流れてきたもので、近所の人捨てたものではない。大切に安置すれば良いと聞いて、現在我が家に置いて、毎朝夕お参りをしています。

折角我が家にきたご縁があります。心を込めて大切にしてお参りをすることにしました。



第1662回例会

4月24日(木) 晴れ 12:30~13:30 松魚亭

1. 講話

会員 深山 彬 君 「近頃思うこと」

2. 出欠

出席 40名 欠席 23名

出席率 63.49% ビジター 2名

3. 来訪者(敬称略)

金 沢 RC 本田八郎

金沢東 RC 松本洋武

4. 幹事報告

・例会終了後に、次年度理事会を開催します

ニコニコボックス

金沢東 RC 松本洋武君

久しぶりに、メーカーキャップさせて頂いております。

深山君 本日、お話をさせていただきます。

磯野(洋)君、中田(龍)君、木村君、俵君、魚住君

本日の講師に、深山彬会員をお迎えして。

川面君 誕生日の花束、有難うございました。

合計 58,000円 (累計 976,000円)

第1663回例会

5月8日(木) 晴れ 12:30~13:30 松魚亭

1. 講話

金沢大学総合メディア基盤センター 教授 大野浩之氏

「デジタルひとりぼっち」と「まめだいふく」

～あるいは情報セキュリティの入口にたたずむ時～

2. 出欠

出席 44名 欠席 18名

出席率 70.97% ビジター 2名

3. 来訪者(敬称略)

金 沢 RC 田中 茂 松田晃和

4. 幹事報告

・例会終了後、理事会開催。

5. 皆出席顕彰(敬称略)

4ヵ年 佐賀 務

1ヵ年 水巻啓光 杉原光彦 油井敏男

6. お誕生日祝い(敬称略)

6日 越田和好 銭亀賢治

15日 橋本和雄

17日 小川克己

18日 木村功一

22日 佃 一成

23日 松本範夫

31日 森 大

7. ご結婚記念日祝い(敬称略)

2日 磯野洋明

3日 俵外代吉

5日 深山 彬

6日 米澤修一

13日 坪田良三

19日 内堀 茂

22日 小川克己

ニコニコボックス

小間井君、中田(龍)君、木村君

講師に、大野浩之先生をお迎えして。

上田君 この度、叙勲の栄に浴しました。これも皆様のお陰と感謝しております。些少ですが、慶びの印に。

小間井君、中田(龍)君、俵君、澤田君

魚住さん、上田さん、この度の叙勲おめでとうございます。

中田(秀)君 5月17日の親睦旅行、宜しくお祝い致します。

油井君 1年間、無事に努める事が出来ました。

佐賀君 宮古島トライアスロン(トライアスロンの最高峰)に行ってきました。水泳3キロ、自転車155キロ、マラソン42キロを11時間50分で完走しました。完走1318人中、652番で半分より前でした。

合計 55,000円(累計 1,031,000円)

第96回ゴルフコンペ成績

平成 20年 5月 10日(土) 朱鷺の台カントリークラブ

	O	I	G	H	N	
優勝	松本範夫	47	42	89	15	74
準優勝	吉井 清	50	51	101	21	80
第3位	大澤久廣	48	49	97	15	82
第4位	川面正雄	46	47	93	10	83
第5位	高島菊丸	56	52	108	24	84
第10位	山上啓介	52	48	100	9	91
B B 佃 一成						
ニアピン	吉井、水巻(2)、松本					

理 事 会 報 告

5月8日(木) 出席者 12名

◆ 審議及び協議事項

- ①金沢百万石 RC 10周年記念事業協賛の件
予備費より10万円拠出
- ②京都洛北 RC 友好訪問(受入)決算書報告承認

4月クラブ日誌

3日(木) 4月定例理事会 松魚亭にて
10日(木) 京都洛北 RC 合同お花見夜間例会 松魚亭にて
11日(金) 京都洛北 RC 友好ゴルフコンペ 片山津 GCにて

講 話 予 定

5月22日(木)

星稜大学教授 大森重宜氏

5月29日(木)

オフィス・キャン・ドウ社長 宮永満祐美氏



会 長：小間井宏尚 S A A：本多 弘夫
会長エレクト：磯野 洋明 会 計：松田 忠秋
副 会 長：安宅 雅夫 広報委員長：的場 晴次
幹 事：中田 龍一 会 員 数：63名
副 幹 事：中村 實博 クラブ設立：昭和48年10月3日

例 会 日：木曜日 12:30~13:30
例 会 場：松魚亭 金沢市東山1-38-30
TEL<076>252-2271 FAX252-2273
事 務 局：金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所内
TEL<076>222-2525 FAX224-2882
E-mail:k-kitarc@aqua.hokuriku.ne.jp